

私の夢(20代男性)

動画リンク: https://youtu.be/Tl2n_FX8BiM

■私のこと

私の名前は山口聡太です。二十七歳です。出身は大阪ですが、今は東京で一人暮らしをしています。大学を卒業してから、東京の家電メーカーに入社しました。今は営業の仕事をしています。営業というのは、会社の商品をお客様に紹介し、買ってもらうために話をする仕事です。私の会社では、主に冷蔵庫や洗濯機などの家庭用電化製品を扱っています。私は家電量販店や商社の担当者と話をして、新しいモデルを紹介したり、販売の方法を一緒に考えたりします。

営業の仕事は人と話すことが多く、毎日がとても忙しいです。朝は早く出社して会議の準備をし、昼間は外回りでお客様の会社を訪問します。夜は報告書を書いたり、次の日の提案をまとめたりします。天気が悪くても外出しなければならない日もあり、体力が必要な仕事です。でも、お客様と信頼関係をつくれるときや、自分の提案が採用されたときは、とてもやりがいを感じます。

学生のころは、社会に出たら「やりたいことを見つけて、楽しく働きたい」と思っていました。でも、実際に働いてみると、楽しさだけでは続けられないことも多いです。仕事には責任があり、失敗することもあります。思っていたよりも現実は厳しいと感じました。それでも、少しずつできることが増えると、うれしさもあります。

社会人になり一人暮らしを始めて、自分で料理や掃除をするようになりました。疲れて帰ってきても、部屋に灯りをつけて温かいごはんを食べると、ほっとします。休日にはコーヒを飲みながら音楽を聞いたり、友人とお酒を飲んで語り合ったりします。

■ 社会人になって感じたこと

社会人になって、私は多くのことを学びました。大学生のころは、「働く」という言葉に明るいイメージを持っていました。しかし、実際に会社で働いてみると、思っていたよりも大変でした。毎日朝早く起きて会社へ行き、夜遅くまで仕事をする日もあります。体が疲れることもあります。それ以上に心が疲れることもあります。仕事には、自分の努力だけではどうにもならないこともあると気づきました。

入社して最初のころは、覚えることが多くて頭の中がいっぱいでした。商品名、取引先の名前、書類の書き方、電話の話し方など、すべてが新しいことばかりでした。先輩たちは忙しそうで、なかなか質問ができず、不安な気持ちで毎日を過ごしました。それでもメモを取りながら少しずつ仕事を覚えていくうちに、自分の中で「できること」が増えていくのを感じました。

職場には、いろいろな性格の人がいます。意見が合わないこともありますし、うまく話せないときもあります。とくに日本の会社では、年上の人をたてて話すことが大切です。

「たてる」というのは、相手を敬う気持ちを言葉や行動で表すことです。はじめはそれがむずかしく、どう話せばいいかわからないこともありました。でも、相手を尊重して接することで、少しずつ信頼してもらえるようになりました。

日本の会社では、チームで動くことが多いです。自分の成績だけでなく、仲間の仕事も助け合うことが求められます。ときには自分の仕事を後回しにして、誰かを手伝うこともあります。最初はそれが面倒だと思いましたが、チーム全体がうまくいったときの達成感は大きいです。そのとき、「一人よりもみんなで働くことの大切さ」を実感しました。

■ 小さい成長

社会人になって三年目のころ、私は初めて大きなプレゼンテーションを任されました。プレゼンとは、お客様に会社の商品を説明して、買ってもらうための発表のことです。前の晩まで何度も練習しましたが、本番では緊張してしまい、言いたいことがうまく言えませんでした。話す順番を間違えてしまい、質問にもうまく答えられませんでした。その日は本当に悔しくて、家に帰ってから自分の話し方を何度も考えました。

それから私は、失敗の原因をノートに書いて整理しました。そして、上司にアドバイスをもらいながら、次のチャンスに向けて準備をしました。少しずつ、話の組み立て方や伝え方が分かってきました。お客様の立場になって考えると、伝え方が変わることに気づきました。二回目のプレゼンでは、相手がうなずきながら話を聞いてくれました。そのとき、初めて「自分の言葉で人を動かせた」と感じました。

仕事を続けていく中で、努力を認めてもらえる瞬間があります。上司に「よく頑張ったね」と言われたときは、心の中でうれしさが広がりました。私の仕事は、数字の結果も大切ですが、それ以上に人との信頼関係が大事です。お客様が「山口さんに任せたい」と言ってくれたとき、自分の成長を実感しました。

もちろん、うまくいく日ばかりではありません。売上が伸びない月や、上司に注意されることもあります。そういうときは、自分の力不足を感じて落ち込むこともあります。でも、焦ってもすぐに結果は出ません。私は一つずつできることを増やすことを意識しています。たとえば、お客様の話をよく聞くことや、毎日の報告を丁寧に書くことです。小さな積み重ねが、少しずつ自信につながります。

そして今、私は「完璧でなくてもいい」と思うようになりました。失敗しても、次はどうするかを考えることが成長につながると感じています。毎日の中で少しでも前へ進めたら、それが一番の成果だと思っています。

■恋愛と将来のこと

に じゅうだい こうはん まわ とも けっこん はじ がくせい じだい なかま けっこんしき ひら
二十代の後半になり、周りの友だちが結婚し始めました。学生時代の仲間が結婚式を開い
たとき、私は心からうれしいと思いました。でも同時に、「自分の将来はどうなるのだろ
う」と考えるようになりました。仕事に追われているうちに、恋愛や結婚のことを後回し
にしていたからです。

わたし しごと す えいぎょう しごと じかん ふきそく よるおそ はたら
私は仕事が好きですが、営業の仕事は時間が不規則で、夜遅くまで働くこともあります。
きゅうじつ やす きも つよ こいびと あ じかん つく かん
休日にゆっくり休みたい気持ちが強く、恋人と会う時間を作るのがむずかしいと感じてい
ました。相手に「忙しい人」と思われてしまい、すれ違いが生まれることもありました。
しごと れんあい りょうりつ おも いじょう むずか
仕事と恋愛の両立は、思っていた以上に難しいものです。

それでも、誰かと支え合いながら生きることには、あこがれがあります。仕事でつらいこ
とがあった日に、同僚が「無理しすぎないでね」と声をかけてくれたことがあります。そ
の言葉だけで気持ちが軽くなりました。もし自分に恋人や家族ができたなら、そういう小さ
な思いやりを大切にしたいと思いました。

れんあい かんが わたし かし かん すこ か いぜん
恋愛について考えるようになってから、私の価値観も少しずつ変わってきました。以前は
せいこう けっこん おも いま せいこう じぶん ひとり て
「成功してから結婚すればいい」と思っていました。でも今は、成功とは自分一人で手
い かん だれ いっしょ わら ささ あ じかん なか
入れるものではないと感じています。誰かと一緒に笑ったり、支え合ったりする時間の中
にも、幸せはあると気づきました。

しごと いそが こころ と おも こいびと
仕事が忙しいからといって、心まで閉じてはいけないと思います。たとえ恋人がいなくて
ひと ひと たいせつ まいにち すこ あか とも はな どう
も、人とのつながりを大切にすれば、毎日が少し明るくなります。友だちと話したり、同
りょう しょくじ じかん なか ひと あた かん けいけん
僚と食事をしたりする時間の中で、人の温かさを感じることができます。そうした経験が、
しょうらい じぶん じんせい かんが
将来の自分の人生を考えるきっかけにもなります。

わたし いま じぶん ゆめ お だれ いっしょ い みらい すこ おも えが
私は今、自分の夢を追いながらも、誰かと一緒に生きる未来を少しずつ思い描いています。
こた で しごと たいせつ おとな
すぐに答えは出ませんが、「仕事もプライベートも大切にできる大人になりたい」という
きも つよ
気持ちは強くなっています。

■夢を見失いそうになった時期

社会人になって五年目のころ、私は仕事に自信をなくしていました。営業の成績がなかなか上がらず、上司にも注意されることが増えました。努力しているつもりでも、結果が出ない日々が続きました。朝起きても体が重く、会社へ行く足が自然と遅くなりました。そのころは、「何のために働いているのだろう」と考えることが多くなりました。

周りを見れば、同期の仲間が昇進していたり、転職して新しい仕事を始めていたりします。私だけが取り残されているような気がして、焦りを感じました。家に帰っても気分が晴れず、スマートフォンを見ながら時間だけが過ぎていきました。そんな自分に嫌気がさして、「このままでいいのか」と自問する日々が続きました。

ある夜、帰り道でふと空を見上げました。ビルの明かりの間に小さく光る月を見て、なぜか涙が出てきました。そのとき、「自分は誰かのために働いてきたのだろうか」と考えました。仕事を始めたころは、お客様に喜んでもらいたい気持ちが強かったはずですが、でも、いつの間にか数字や結果ばかりを気にするようになっていました。

次の日、私はお客様の一人から「あなたに相談してよかった」と言われました。その言葉を聞いて、胸の奥が少し温かくなりました。大きな契約ではありませんでしたが、心からうれしかったです。その瞬間、「やっぱり自分は人の役に立ちたい」と思いました。自分の仕事が、誰かの生活を少しでも良くすることにつながる。それが、私がこの仕事を選んだ理由だったと気づきました。

あの時期は苦しかったですが、今では大切な時間だったと思います。うまくいかない日があるからこそ、自分の本当の気持ちを見つめ直すことができました。落ち込むことも悪くはありません。止まることで、次に進む方向が見えることもあります。私はあの経験のおかげで、「結果よりも気持ちを大切に作る働き方」を考えるようになりました。

■ 小さな挑戦を始めた日

落ち込んでいた時期をこえて、私は少しずつ前を向こうと思いました。すぐに大きなことはできませんが、自分の力で何かを変えたいと思ったのです。そのとき会社では、新しい商品の販売方法を考えるプロジェクトが始まりました。私は勇気を出して、「自分も提案してみたい」と手を挙げました。まわりの人は驚いたようでしたが、上司は「やってみなさい」と背中を押してくれました。

私はまず、お客様にアンケートを取りました。どんな点に困っているのか、どんな商品があればうれしいのかを一つ一つ聞きました。そして、その意見をもとにプレゼンの資料を作りました。夜遅くまで会社に残って、何度も内容を直しました。以前の私なら途中であきらめていたと思います。でもそのときは、「最後までやりきりたい」という気持ちが強くありました。

発表の日、私は緊張で手がふるえました。それでも、ゆっくり話すように心がけました。お客様の言葉を交えて説明したところ、上司がうなずきながら聞いてくれました。発表のあと、「とてもよかったよ。実際にやってみよう」と言われた瞬間、胸が熱くなりました。自分の考えが初めて会社に認められた気がしました。

その後、チームの仲間と協力して新しい販売方法を試しました。意見がぶつかることもありました。みんなで話し合いながら進めました。うまくいったときの喜びは、今でも忘れられません。数字以上に、「自分の行動で何かを変えられた」という実感がありました。この経験から、私は一つのことを学びました。行動すれば、少しずつでも状況は変わるといことです。失敗を恐れて何もしないより、小さな一歩を踏み出すほうがずっと大切です。たとえ結果がすぐに出なくても、挑戦することで自分の世界が広がります。あの日の決断が、私の働き方を変えるきっかけになりました。

■挑戦から見えた夢

あたらしい挑戦をくり返す中で、私は「自分が本当に目指したいもの」が見えてきました。それは、人に信頼され、仲間を支えられる営業リーダーになることです。昔は「出世して給料を上げたい」と思っていました。でも今は、それだけが成功ではないと感じています。大切なのは、自分がまわりの人に信頼される存在になることだと思いうようになりました。信頼されるというのは、地位や肩書ではなく、相手から「この人に任せたい」と思ってもらえることです。営業の仕事で大切なのは、売ることだけではありません。お客様の悩みを聞き、生活を良くする方法と一緒に考えることです。お客様から「あなたが担当でよかった」と言われたとき、心からうれしくなります。その一言が、どんな賞よりも私に力をくれます。また、職場でも少しずつ後輩が増えてきました。私は彼らに、自分が経験してきた失敗や学んだことを伝えるようにしています。仕事のやり方だけでなく、「人との関わり方」も大切にしてほしいと思っています。以前は「自分がどう評価されるか」ばかりを考えていましたが、今は「誰かを支えられる人になりたい」と思うようになりました。チームで働く中で、人を信じることや助け合うことの意味を知りました。私は、将来は後輩たちの成長を支える立場になりたいです。そして、彼らが自信を持って働けるようにサポートしたいと思っています。私の夢は、数字だけを見るリーダーではなく、「人を信じ、人に信頼されるリーダー」になることです。それが、今の私の目標であり、働く意味でもあります。

■今の自分にできること

夢をかなえるために、私は今できることを一つずつ実行しています。リーダーになるには、まず自分が信頼される人でなければなりません。だから、毎日の小さな約束を大切にしています。お客様との約束を守ること、同僚に「ありがとう」と伝えること、困っている人を見たら声をかけること。当たり前のように見えることを、まじめに続けるようにしています。最近、後輩と一緒にお客様のもとを訪ねることが増えました。後輩がうまく話せなかったときに、私がフォローし、逆に私が困ったときには彼らが助けてくれます。そんな関係の中で、私は「チームで働くことの意味」をより深く理解しました。人と協力することで、自分だけでは見えなかった可能性が見えてきます。また、後輩の相談にできるだけ時間を使うようにしています。仕事の話だけでなく、悩みや不安も聞くようにしています。相手が少しでも安心できるように耳を傾けることが、信頼の第一歩だと思うからです。ときには自分も失敗します。けれど、その姿を隠さずに見せることで、後輩が「完璧じゃなくてもいいんだ」と思ってくれたらうれしいです。人に頼られることは重い責任ですが、それ以上に温かい気持ちをもらえます。夢はすぐにはかなわないかもしれませんが、でも、努力を続けることで、少しずつ近づいていくと信じています。

■明日への希望

これまでの社会人生活をふり返ると、楽しいことも大変なこともたくさんありました。思いどおりにいかない日も多く、何度も落ち込みました。それでも、あきらめずに続けてきたからこそ、今の自分があります。悩みも失敗も、すべてが自分を成長させる力になっていと感じます。

二十代は、とても忙しい時期です。仕事を覚え、責任を持ち、周りとは協力しながら前に進まなければなりません。ときどき、未来が遠く感じることもあります。でも、どんな日も一歩ずつ積み重ねれば、必ず変化は見えてきます。大切なのは、比べることではなく、自分のペースで歩くことだと分かりました。

私はこれからも営業の仕事を続けたいと思っています。今の目標は、人を支えながら、自分も成長し続けるリーダーになることです。数字の結果よりも、人の笑顔を増やせる働き方をしていきたいと思っています。仕事を通して出会う人に、「この人と出会えてよかった」と思ってもらえるような存在になりたいです。

また、将来は家庭を持ち、家族と過ごす時間も大切にしたいと考えています。仕事だけでなく、人とのつながりの中で幸せを感じられる人生を送りたいです。以前は「成功＝地位やお金」だと思っていましたが、今は「心が満たされること」こそ本当の成功だと思うようになりました。

明日がどんな一日になるかは分かりません。でも、どんなときも前を向いて歩いていきたいです。失敗しても、立ち止まっても、また進めばいい。努力を続ければ、きっと夢は形になります。



Japanese-listening-SUSHI

